

お知らせ

1 お知らせ

栽培資源研究所では、国の資源回復等推進支援事業の一環として、平成14年度から県内の漁業者が取り組んでいるサワラの間育成や種苗放流等について指導しており、今年度も、平成23年7月21日に今治市大浜地先において平均全長約13cmのサワラ種苗約4,600尾を漁業者とともに放流しました。

2 サワラ *Scomberomorus niphonius* (スズキ目サバ科)

○名前の由来

サワラ「鱈」は春に瀬戸内海に産卵回遊する事に由来します。
瀬戸内海を代表する魚種の一つです。

○年齢、成長

1年で55～60cm、2年で70～80cmに成長し、2年でほぼ100%成熟します。
寿命はおよそ7年です。

○産卵

産卵期は5～6月、2歳で約60万粒の卵を持っています。

○食性

魚食性が強く、稚魚期はカタクチシラス、成魚はイワシ類、アジ、イカナゴ等を主に捕食します。

○肉質

淡泊な白身で美味、刺身・焼き物・揚げ物・煮付けの他、ムニエル等の洋風料理にもよく合います。



3 放流目的

瀬戸内海のサワラの漁獲量は、漁具の改良等による漁獲努力量の向上が影響して、昭和61年に6,378トンもの漁獲がありましたが、平成10年には199トンにまで大幅に減少しました。

このため、国の指導の下、平成14年度から瀬戸内海の11府県の漁業者がサワラ資源回復に向けた各種取組みを実施しており、この取組みの一環として、今治市大浜地先においてサワラ種苗を放流しました。

4 放流実績

平成14年度より、瀬戸内海の各府県が実施しており、平成22年度は瀬戸内海全体で約20万尾（内愛媛県；約2万尾）の種苗が放流されています。

瀬戸内海におけるサワラ放流状況									
放流海域	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
東部海域	133,992	177,493	36,000	113,419	104,781	217,416	118,485	163,248	164,922
西部海域	75,006	16,489	60,273	45,086	41,800	53,468	73,000	67,088	34,830
瀬戸内海計	208,998	193,982	96,273	158,505	146,581	270,884	191,485	230,336	199,752
うち愛媛県	5,313	12,589	31,500	25,900	33,500	45,400	61,500	51,100	20,930

愛媛県におけるサワラ放流状況											
年度	H19			H20			H21			H22	
育成漁協	大浜	小部	大浜	小部	上灘	大浜	小部	上灘	大浜	上灘	
育成期間	6/11 ~7/3	6/11 ~6/23	6/20 ~7/4	6/20 ~7/4	6/20 ~7/2	6/15 ~6/26	6/15 ~6/26	6/15 ~6/26,27	6/21 ~7/6	6/21 ~7/3	
收容尾数	30,000	45,000	35,000	35,000	11,000	30,000	33,000	10,000	19,850	9,900	
放流尾数	15,900	29,500	24,400	29,900	7,200	23,000	21,500	6,600	13,900	7,030	
放流サイズ (mm)	105	68	91	95	88	77	82	83	93	86	

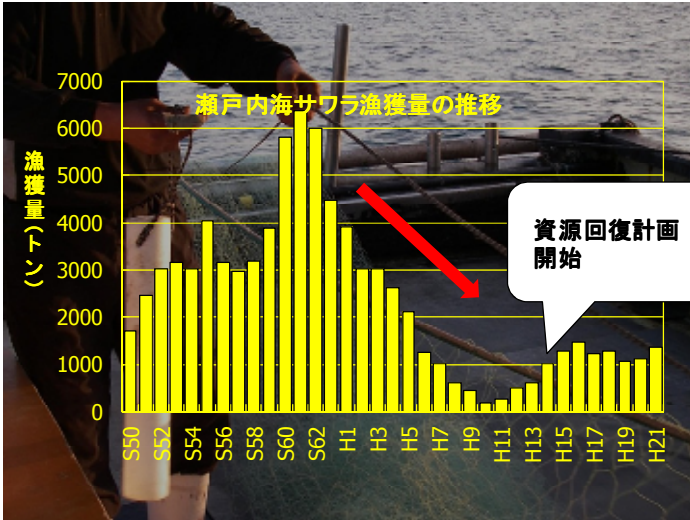
5 再捕調査

放流魚は、天然魚との区別のため、あらかじめ頭部にある耳石に特別な色素で染色（内部標識）を施すとともに、染色形態を変えてどこの放流群か判別出来るようにしています。

調査は、栽培資源研究所が漁業協同組合から頭部標本の提供を受け、その中の耳石を検査することによって、放流効果を試算しています。

サワラの資源回復に向けて

サワラ資源の減少 ～資源回復計画開始～



○資源回復計画

- ・資源の積極的培養
- ・漁獲制限
- ・漁場環境保全

サワラ資源の積極的な培養



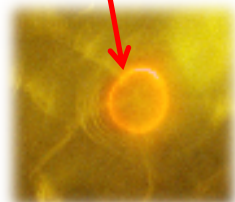
採卵～中間育成～種苗放流



放流魚の追跡調査



「耳石」から標識と年齢を査定します。



耳石標識
(瀬戸内海西部放流群)

資源状態の把握

水揚げされたサワラから資源状態を評価します。

